

環境リーディングカンパニーをめざして

「環境フューチャーモール」をテーマに 環境負荷低減のノウハウを積み重ねていきます。

2017年の「環境マネジメントモール世界ナンバー1」の経営ビジョンのもと
イオンモールでは2012年のCO₂排出総量の30%削減(2006年度比)を打ち出しました。
最高水準の環境技術と設備のハードと、運営ノウハウのソフトの両面から
「環境フューチャーモール」の実現をめざします。



CO₂削減委員会 委員長
■専務取締役 開発本部長
山中 千敏

2012年度CO₂を30%削減

イオンモールでは「グローバル5」をめざす経営ビジョンのもと、2017年に達成すべき5つの企業像を掲げています。そのひとつが「2017年 環境マネジメントモール世界ナンバー1」。サービスの質を高めながらも、CO₂排出を削減し、ゼロエミッションを推し進め、環境への影響を最小にするモールづくりをめざそうというものです。

早くからISO14001を取得し、環境負荷の低減に努めてきましたが、低炭素社会への移行が全世界的な課題となっている今、CO₂の排出量をトータルで減らしていくことがリーディングカンパニーとしての社会的責任であると判断し、2012年度にCO₂排出総量を2006年度比で30%削減するというチャレンジングな目標を掲げました。

2006年度のCO₂排出量は42SC計で72万8,500トン、1SCあたり1万7,350トンです。2012年度に総量で30%削減した場合のCO₂量は約51万トンですから、69SCの場合、1SCあたり約7,390トンと、58%もの削減が必要になる計算です。

CO₂対策グループでロードマップづくり

CO₂を半減するためにどんな設備や技術が必要か、設計事務所やゼネコン、設備メーカーなどの知恵を結集しなくてはなりません。まずは2008年冬にオープン予定のイオンモール草津(滋賀県)をモデルに、従来型のモールより3,000トンの削減を目指します。専門の評価チームで導入技術を検証・評価し、「イオンモール版・エコモールガイド」を制定します。

ハードだけでなく、運転管理などのソフトの技術をいかに高めていくか、エコモールを超えた「環境フューチャーモール」実現のために、達成しなければならないハードルはいくつもあります。

全社を挙げてCO₂削減を戦略的に推進するため、2008年5月、CSR推進部およびその配下にCO₂対策グループを新設しました。今後1年かけて、中長期のCO₂削減のロードマップを策定していく予定です。

「環境経営度」調査

倉庫・不動産・その他部門で1位の評価

順位	社名	スコア	運営 教育体制 長期目標	汚染対策 情報公開	資源 循環	温暖化 対策
1	イオンモール	388	100	100	88	100
2	マルハ	346	95	92	100	59
3	三洋電機ロジスティクス	339	83	69	98	89
4	日本綜合地所	300	87	84	83	46
5	三井不動産	276	79	80	73	44

日経産業新聞「第11回 環境経営度調査」2007年12月3日付け記事より

環境方針

イオンモールは、資源エネルギーを有効に活用し、サービスの質を高めながらも、環境への影響を最小にするモールづくりを通じて、持続可能な社会の実現をめざします。

そのため、環境方針を以下のとおり定め、あわせて、多くのお客様さとのコミュニケーションと地域貢献の履行に努めてまいります。

- 1 イオンモールは、地球温暖化の防止のため、CO₂排出を削減いたします。
- 2 イオンモールは、地球資源を保全し、循環型社会の構築をめざすため、ゼロエミッションモールを実現します。
- 3 イオンモールは、お客さまをはじめとするパートナーさまの生活環境の向上と、地域社会の発展と環境保全に貢献します。
- 4 イオンモールは、環境法規制や当社が受け入れを決めた要求事項を順守します。
- 5 イオンモールは、環境マネジメントシステムを構築し、事業部門ごとに目的・目標を制定し汚染を予防する体制を築き、継続的な改善を推進します。
- 6 イオンモールは、従業員全員で環境意識を高め、お客さま・パートナーさまへの啓蒙活動を続けます。
- 7 この方針を当社従業員及びともに働く従業員に周知するとともに、当社の環境情報を公開いたします。

2008年6月13日

イオンモール株式会社

代表取締役社長 村上 教行

環境中期目標

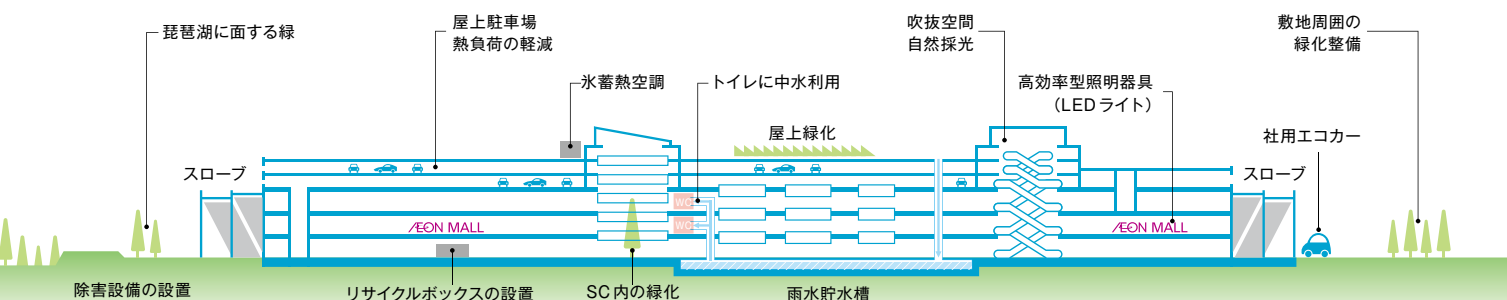
当社は地球温暖化防止のため、CO₂排出量を2012年度までに2006年度比総量で30%削減します。

対象：当社管理の後方・共用部分

2008年度 環境目的 (2010年度までに)

1. 地球温暖化防止のため、CO₂排出を2006年度比20%削減します。
 - (1) CO₂削減可能なショッピングモールへの転換を図ります。
 - ① CO₂削減対応型のエコモールを開設します。
 - ② CO₂削減可能なエネルギーへの転換を推進します。
 - ③ CO₂削減可能な省エネ設備の導入を推進します。
 - (2) CO₂削減可能な運転管理に改善します。(設備管理意識の改革)
 - ① 効率的な設備管理による省エネの効率向上をめざします。
 - (3) CO₂削減のためお客さまをはじめとするパートナーさまへの情報を発信いたします。
 - ① 環境情報を継続的に提供します。
 - ② テナント従業員への環境意識向上のための教育を実施します。
例：マイバッグ持参運動・マイ箸運動・路線バス利用……
2. 地球資源を保全し、循環型社会の構築をめざします。
 - (1) 廃棄物を2006年度比5%削減(売上高原単位)します。
テナントさまに呼びかけ、リサイクルからリユースへの転換の可能性を模索します。
 - (2) 水資源保全のため「中水利用」等を推進します。
 - (3) 「紙の削減」をはかります。
3. 地域の一員として、「安心」「安全」なショッピングセンター作りをめざします。
 - (1) 登録法規制を順守します。
 - (2) 緊急事態の発生を想定し、訓練・対応を徹底します。
パートナーさまもご参加いただき緊急事態対応を実施します。

イオンモール草津に導入予定の環境技術



ハードとソフトの両面で効果的にCO₂削減を進めます。



■取締役 営業本部
SC サポート部長
相馬 勝

省エネルギーは省コストにつながる

SC全体で電力消費の形で排出するCO₂の内訳は、照明40%、空調20%、その他40%ですが、当社が管理コントロールできるエリア（共用部）だけを見れば、空調が65%、照明15%、その他20%となっています。

従ってCO₂削減は、高効率の空調システムの導入が第一です。あわせて現在導入している大型の氷蓄熱システムやイオンモールむさし村山ミューのNAS電池など、夜間電力の活用も推進していきます。既存店の設備も、各種設備へのインバーター設置や高効率機器への入れ替え等を積極的に推進していきます。

CO₂削減すなわち省エネは、省コストでもあり、一方で

は、各種設備機器の省エネ性能も日々向上しており、投資のタイミングや投資コストとその効果のバランスを見定めながら、単位床面積当たりのCO₂排出量を指標にして、総量削減をめざしていきます。

設備運転管理ノウハウの「見える化」を推進

ハードの能力を最大限活かすためには、毎日の運転管理が極めて重要です。各モールでの運転技術の向上とノウハウ蓄積、そしてそれらの水平展開を進め、レベルの平準化を図っていくことで、10～20%程度のCO₂削減を図ります。そのために、設備管理のさらなる標準化とマニュアルの整備、指標数値による徹底した運用管理を進めていきます。

このほか、お客さまの快適さを損なわずに、かつ省エネも図れる、さまざまな運転管理ノウハウの開発も重要なテーマです。

2012年度におけるCO₂の2006年度比30%削減は、総排出量としての削減であり、極めて高い目標であることは事実ですが、ハード面・ソフト面を含めありとあらゆる研究と努力によって、ぜひとも達成しようと決意しています。安易な形で“排出権”に頼るのではなく、可能な限り日々の工夫努力といった“現場の力”を大事にして、CO₂削減の実効性を高めていきます。

大規模商業施設の 省エネ推進のモデルの 役割を期待

■全国小水力利用推進協議会
事務局長
中島 大氏



2007年度から各地のモールを回って省エネの現状をチェックしたり、オペレーションマネージャーを対象にしたセミナーを実施し、省エネを推進する体制づくりのアドバイスをを行っています。みなさん実に真剣に聞いてくださいます。2012年度に向けたCO₂削減方針には正直、その大胆な発想に驚かされましたが、一緒にCO₂削減を推進することができ、とてもやりがいを感じています。



電飾サイン文字に LEDを採用

イオンモール日の出では、電飾サイン文字の光源に「LED光源ユニット」を採用。年間消費電力はネオンの約4分の1で、耐久性は3倍です。3万時間経っても輝度の低下が少なく、環境負荷の低減が図れます。



氷蓄熱冷房で 昼間の空調負荷を平準化

氷蓄熱とは、夜間電力を使って、氷を蓄熱層に貯え、昼間の冷房に使う空調システム。昼間の空調負荷を蓄熱でまかなうことでエネルギー負荷が平準化されるメリットがあり、全国17SCに導入しています。

現場での地道な CO₂ 削減ノウハウの蓄積をサポートしています。

■営業本部 SCサポート部 マネージャー
福田 阜

モールの設備全般のメンテナンスおよび運転管理に関する現場での技術的なサポートを担当しています。既存設備の性能維持と劣化状況を的確に把握し、一方で各種機器の技術的な進歩の状況を踏まえながら、設備機器更新にあたっての最適機器選定と実施タイミングの見極めを行っています。

CO₂削減の観点では、現場の条件にもっとも適した機種を選定はもちろんのこと、その性能を十分に発揮させるための日常の維持管理とスケジューリングされた的確なメンテナンスが極めて重要です。

現場を巡回しながら最適な運転管理をしているかどうかを確認指導し、また現場とのコミュニケーションによりさらなるノウハウの蓄積と水平展開を進め、CO₂削減につなげていきたいと思っています。つねに現場最優先で、現場でのCO₂削減のサポートを心がけています。

教育できる人材を育成

イオンモールでは、全国に点在するモールで環境への取り組みを浸透させ、テナント従業員への指導を徹底するため、内部監査を重視し、計画的に内部監査員の育成を行っています。現在、内部監査員の取得者は302名で、社員増により取得率は48.9%に低下しましたが、継続して育成していきます。教育できる人材を育てることで、内部監査の質が高まると同時に、省エネ活動など課題を解決できる人材が育ち、CO₂削減のレベルアップが図れるものと考えています。



全国のオペレーションマネージャーが集合し、新店の取り組みや各モールでの取り組みの成果を共有



屋上緑化で 省エネにひと役

イオンモール日の出では、屋上にヒートアイランド現象の低減と植物によるCO₂吸収を目的に、約2,400m²にわたりセダムを植えています。室内の断熱効果が期待できます。また壁面緑化にも取り組んでいます。



太陽光発電の 導入を推進

イオンモール日の出と羽生では、屋上や屋根部分に1,000m²に及ぶソーラーパネルを設置しています。クリーンエネルギーでまかなえる電力はわずかですが、お客さまへの啓発効果が高く、今後も導入を推進します。

ISO14001 担当になり 内部監査を経験 数字の意味がわかった

■イオンモール広島府中ソレイユ
オペレーション担当
山本 佳奈



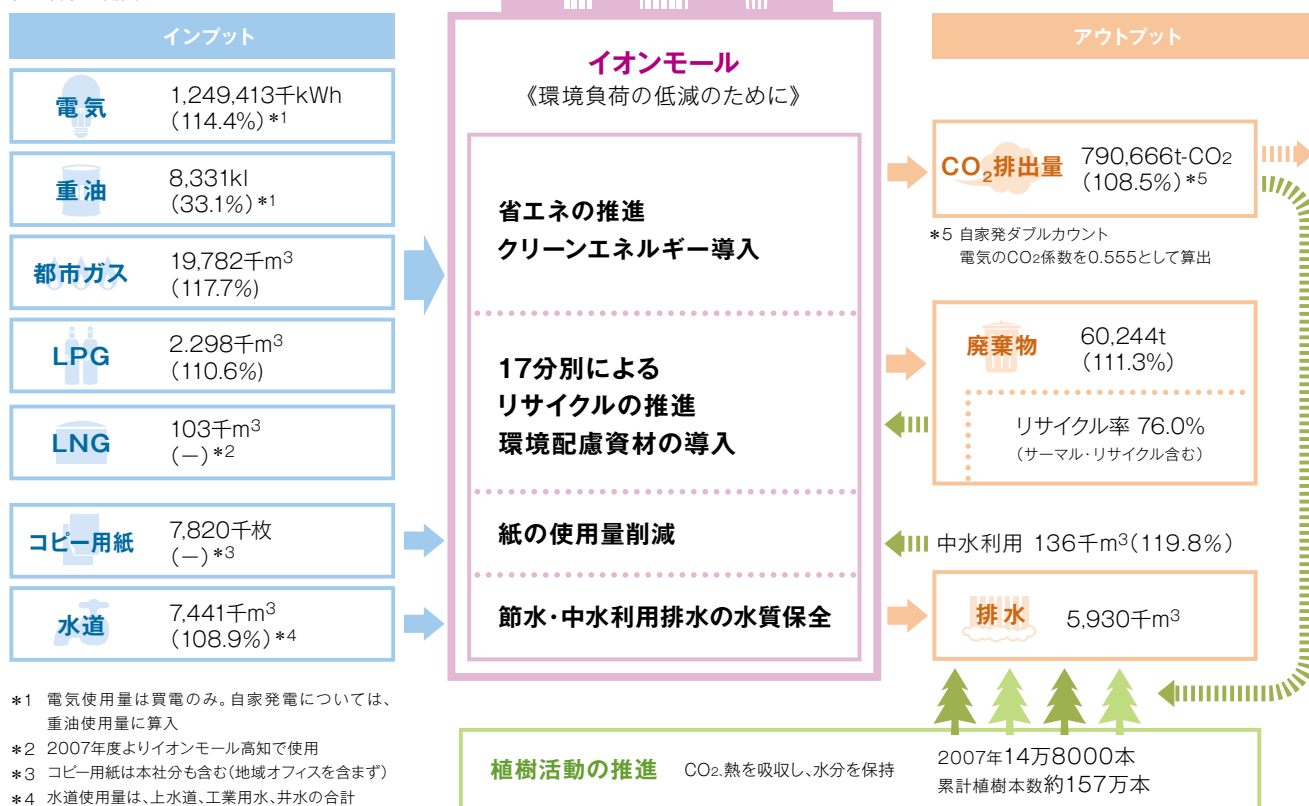
昨年、入社2年目でISO推進担当補佐になりました。これまで環境ISOの知識はほとんどない状態でしたが、合併後初めての内部監査の準備を進める過程で担当になって、120項目をチェックすることで、数字の意味や、ISOの意義が理解できるようになりました。2008年度は本格的にCO₂削減に取り組みます。設備の運転管理の背後の思想を理解して、適切な指示が出せるようになりたいですね。

テナントの従業員とともに 環境保全活動のレベルアップを図っています。

2007年度インプット / アウトプット(44SC)

イオンモール名古屋ワンダーシティ、大津ショッピングプラザを除く

()内は対前年比



2008年度に取り組む著しい環境側面

業務	環境側面	環境負荷内容
現在業務	お客さま・従業員が来店・帰宅する	エネルギー・資源を使う
	SC 共用部分でエネルギーを使用する	エネルギーを使う
	SC 館内で空調する	エネルギーを使う
	テナントがエネルギーを使用する	エネルギーを使う
	伝票印刷する	紙を使用する
事故・緊急事態	CO ₂ の2006年度比 総量での排出超過	地球温暖化防止
	浄化槽・下水の排水基準値超過	水質汚濁
	生ゴミ処理機の爆発事故の発生	負傷者の発生・建物損傷
	産廃契約及び許可証の期限切れ	環境法規制の順守
	廃棄物業者	廃棄物処理
パートナーさま	燃料小売業者	ガソリンスタンド
	清掃業者	剥離剤使用
	設備管理会社	地球温暖化防止

事業に関わる主な環境関連法規制

場面	関連法規制
SCの立地に関して	大店立地法・環境アセスメント法
SCの建設・増改築時	建設リサイクル法
事業から出るごみについて	廃棄物処理法
SCからの排水について	下水道法・浄化槽法・瀬戸内海環境保全措置法
SCのエネルギー使用について	地球温暖化対策法・省エネルギー法
設備に関して	
重油タンク	消防法・水質汚濁防止法
常用発電機・ボイラー・冷温水発生器	大気汚染防止法
送風機・クーリングタワー	騒音規制法
設備等の使用済み処理時	
パッケージエアコン・空調用チリングユニット・ガスエンジンヒートポンプ	フロン回収破壊法
冷蔵庫・エアコン・洗濯機・テレビ	家電リサイクル法
社用車	自動車リサイクル法



ごみ計量システムで、廃棄物削減を推進

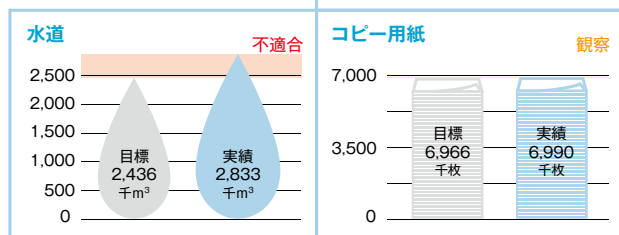
下のデータは、2007年度の目標管理対象となっている部署の電気・水道・紙の使用量をまとめたものです。電気、水道、紙のいずれも使用目標をやや上回りました。

全社のリサイクル率は76.0%です。廃棄物については、17品目の分別を基本にリサイクルを推進しています。

計量システムの導入も進めています。廃棄物が品目別に一覧でき、排出量の推移がわかるため、リサイクルの向上とともに廃棄物の削減にも効果があります。テナントの業種別に廃棄物の内容を分析したり、排出量を一覧にして各テナントにフィードバックすることで、さらなる削減のための意識づけを図っています。

2007年度目標管理 環境データ

電気、水道、コピー用紙は、目標設定部署のみが対象（新規オープン、増床、改築などの場合、15カ月は目標管理対象外のため除外）



種類ごとに重さを量り、品目と店名をバーコード入力します。



廃棄物は、17分別を基本に、種類別に別けリサイクルへ



お客さまにもリサイクル回収をお願いしています。フードコートでは割り箸を回収しています。

排水基準を順守するために

飲食店が集まるショッピングモールにとって、排水基準を順守することは、重要な課題です。そのため、2007年度は排水の除害施設の運用方法や規模を検証し、設備の導入や運用の基準を定めました。飲食店厨房では、毎日のグリストラップ清掃と、定期的な水質測定を実施しています。

環境活動にあたっては、テナント従業員の協力・参加が欠かせません。毎日の行動が、環境にどんな影響を与えるのかをわかりやすくまとめたハンドブックを配布し、環境意識の啓発に努めています。



グリストラップ清掃

17品目の分別と2007年度リサイクル率

1 生ごみ	76.2%
2 段ボール	100.0%
3 雑芥*	38.1%
4 廃プラスチック	98.7%
5 ビン	99.8%
6 缶	100.0%
7 発泡スチロール	100.0%
8 廃油	100.0%
9 紙類	100.0%
10 粗大ごみ	50.7%
11 その他不燃ごみ	68.9%
12 廃蛍光灯	66.4%
13 廃電池	84.8%
14 割り箸	98.6%
15 廃アルカリ、剥離剤	73.4%
16 汚泥	81.9%
17 廃エンジンオイル	100.0%

*雑芥：これ以上分別できないごみ

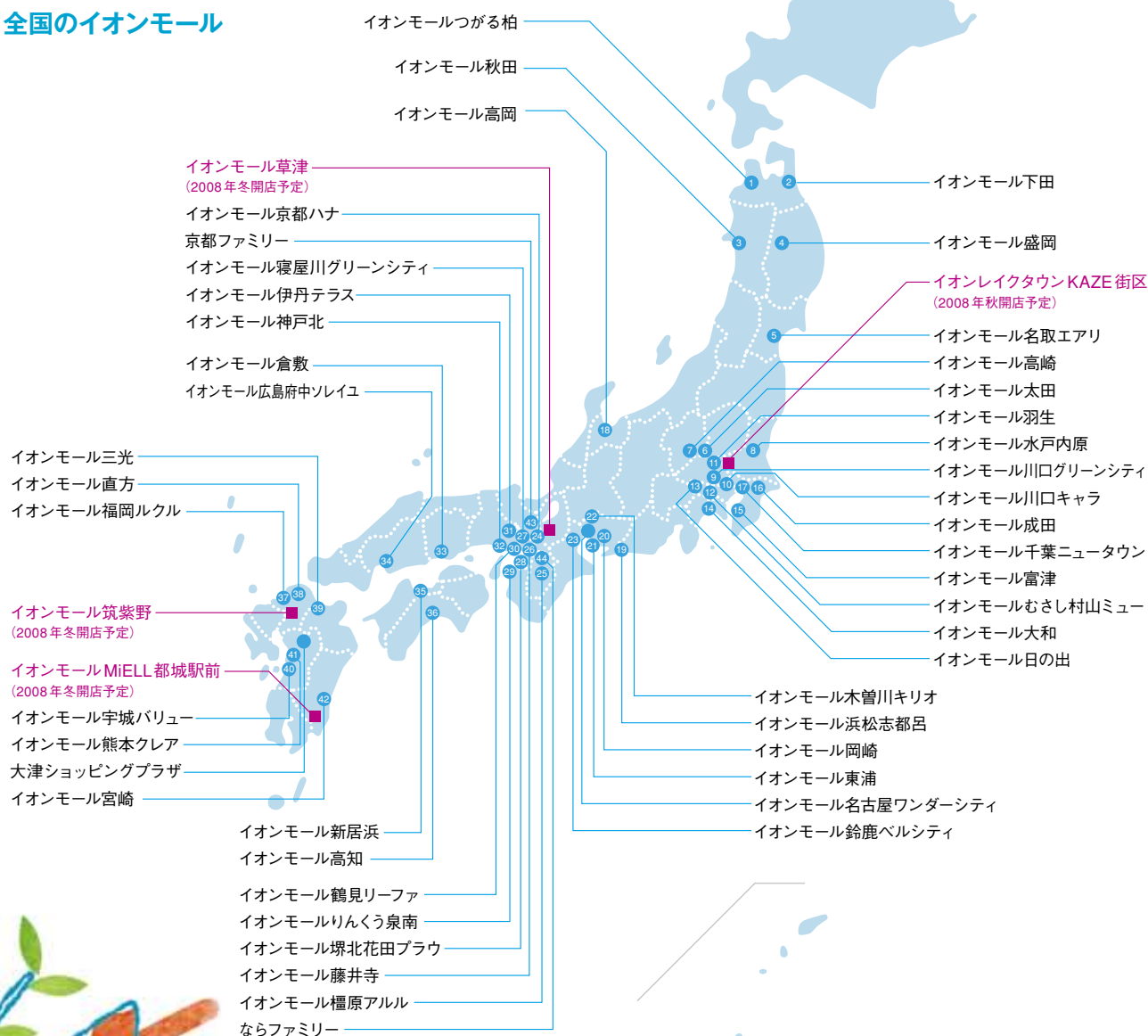
「SRシステム」で月ごとの環境データを把握し、 環境マネジメントに活かしています。

合併前にそれぞれで構築していたISO14001環境マネジメントシステムを2007年11月に統合しました。全モール・部署ごとの目標管理を効果的に進めるため、2005年3月から「S R (Social Responsibility) システム」を稼働。エネルギー、廃棄物、水、紙などの目標管理対象の項目別に達成状況が一目でわかる体制を構築し、PDCAのサイクル

で環境負荷の低減を進めています。2007年度は環境データに加え、募金活動や社会貢献活動も管理できるシステムとしました。

全国のモールは広さも構造も設備も異なりますが、好事例をオペレーション・マネージャー会議やイオンモールS R会議で報告し、ノウハウを水平展開しています。

全国のイオンモール



店名	オープン	CO ₂		電気		自家 発電	水蓄熱	自然 エネルギー その他設備	水		廃棄物 排出量 (kg)	リサイク ル率	生ごみ 処理機	廃棄物 計量 システム	植樹本数 (本)
		排出量 (t-CO ₂)	(2006年度比)	使用量 (千kWh)	(前年比)				使用量 (m ³)	(前年比)					
東北営業部															
① イオンモールつがる柏	1992年 11月	2,541	(86.1%)	4,098	(104.3%)	2006年 2月 撤去			20,740	(94.1%)	734,786	61.6%	2007年 7月撤去		72,388
② イオンモール下田	1995年 4月	2,912	(30.3%)	4,826	(96.2%)	2006年 3月 撤去		風力発電	41,502	(104.1%)	1,808,236	56.6%		※	50,675
③ イオンモール秋田	1993年 9月	3,627	(31.4%)	6,312	(103.1%)	2006年 3月 撤去			32,147	(85.9%)	1,610,189	94.3%	2007年 10月撤去		43,127
④ イオンモール盛岡	2003年 8月	5,305	(102.8%)	8,828	(101.9%)				43,522	(94.7%)	1,411,406	78.7%		●	26,528
⑤ イオンモール名取エアリ	2007年 2月	7,231	—	11,094	—		●		87,626	—	1,148,756	68.9%			20,000
北関東営業部															
⑥ イオンモール太田	2003年 12月	5,483	(103.0%)	9,783	(102.7%)				60,737	(99.8%)	1,813,019	64.5%		●	54,549
⑦ イオンモール高崎	2006年 10月	6,636	—	11,893	—		●		74,720	—	956,345	58.4%		●	50,000
⑧ イオンモール水戸内原	2005年 11月	7,550	(95.8%)	13,468	(95.5%)		●		128,208	(112.4%)	1,423,686	68.2%		●	49,988
⑨ イオンモール川口グリーンシティ	1984年 4月	2,418	(87.2%)	3,595	(108.3%)				39,905	(95.0%)	959,714	28.2%			252
⑩ イオンモール川口キャラ	2000年 11月	4,543	(89.2%)	7,931	(86.6%)		●		76,359	(124.5%)	1,222,462	99.9%			20,000
⑪ イオンモール羽生	2007年 11月	3,297	—	5,992	—		●	太陽光発電	41,047	—	552,290	93.5%		●	90,000
南関東営業部															
⑫ イオンモールむさし村山ミュー	2006年 11月	8,072	—	14,376	—		●	NAS電池	56,308	—	1,291,627	69.3%			45,000
⑬ イオンモール日の出	2007年 11月	1,700	—	3,052	—		●	太陽光発電	10,768	—	459,556	100.0%		●	58,000
⑭ イオンモール大和	2001年 12月	11,198	(93.0%)	8,645	(98.0%)				68,479	(91.7%)	1,965,908	95.2%	2003年 12月撤去	●	20,849
⑮ イオンモール富津	1993年 9月	2,969	(111.1%)	5,324	(122.3%)	2006年 3月 撤去			25,351	(108.7%)	1,030,403	99.8%	●		32,000
⑯ イオンモール成田	2000年 3月	13,456	(92.9%)	6,495	(85.3%)	2008年 2月 停止			79,443	(146.2%)	2,307,226	82.6%	●		46,000
⑰ イオンモール千葉ニュータウン	2006年 4月	6,993	—	10,095	—				30,523	—	2,589,096	97.9%		●	14,000
中部営業部															
⑱ イオンモール高岡	2002年 9月	6,072	(100.3%)	10,810	(99.8%)				86,457	(89.3%)	1,261,016	72.2%	2007年 3月撤去	●	44,726
⑲ イオンモール浜松志都呂	2004年 8月	7,283	(96.5%)	13,057	(96.4%)				63,239	(92.0%)	1,852,768	61.5%		●	38,116
⑳ イオンモール岡崎	2000年 9月	3,593	(98.6%)	4,547	(98.2%)				46,974	(99.4%)	948,238	41.2%	●		48,979
㉑ イオンモール東浦	2001年 7月	11,115	(99.2%)	7,651	(99.1%)				86,294	(98.3%)	2,262,284	93.6%	2006年 8月撤去	●	25,327
㉒ イオンモール木曽川キリオ	2004年 6月	7,836	(104.8%)	13,945	(103.7%)		●		109,484	(124.9%)	1,198,375	78.8%			12,000
㉓ イオンモール鈴鹿ベルシティ	1996年 11月	5,271	(102.1%)	6,836	(100.9%)				90,013	(94.5%)	1,877,998	77.1%	2006年 2月撤去		36,000
近畿営業部															
㉔ イオンモール京都ハナ	2004年 3月	5,125	(98.7%)	9,166	(98.2%)		●		65,486	(116.9%)	1,265,758	72.4%			11,000
㉕ イオンモール橿原アルル	2004年 4月	6,832	(98.5%)	12,153	(101.8%)		●		116,148	(96.6%)	971,468	69.6%			25,000
㉖ イオンモール藤井寺	1973年 12月	1,882	(103.1%)	3,370	(102.8%)				26,255	(95.2%)	736,180	46.9%			—
㉗ イオンモール寝屋川グリーンシティ	1978年 3月	2,397	(100.8%)	4,274	(99.8%)				20,293	(96.8%)	886,997	50.3%			3,267
㉘ イオンモール堺北花田ブラウ	2004年 10月	7,200	(101.1%)	12,807	(100.0%)		●		56,420	(73.4%)	999,468	30.6%			13,000
㉙ イオンモールりんくう泉南	2004年 11月	8,119	(99.4%)	13,195	(99.5%)		●		123,641	(106.8%)	1,443,290	96.7%		●	66,616
㉚ イオンモール鶴見リーファ	2006年 11月	6,071	—	10,871	—		●		63,673	—	1,090,238	46.9%			12,839
㉛ イオンモール伊丹テラス	2002年 10月	7,925	(102.6%)	14,194	(102.2%)		●		80,968	(103.4%)	2,322,822	60.4%			30,000
㉜ イオンモール神戸北	2006年 11月	14,931	—	12,252	—				96,976	—	932,565	100.0%		●	56,000
中国四国営業部															
㉝ イオンモール倉敷	1999年 9月	5,530	(34.7%)	9,933	(98.5%)	2006年 3月 撤去			78,596	(96.1%)	2,272,739	99.4%	●	●	70,000
㉞ イオンモール広島府中ソレイユ	2004年 3月	9,604	(96.3%)	17,216	(95.9%)		●		99,451	(100.7%)	1,754,443	100.0%			64,000
㉟ イオンモール新居浜	2001年 6月	4,844	(33.0%)	5,610	(97.7%)	2007年 3月 撤去			50,046	(85.0%)	1,372,993	71.5%	●	●	35,000
㊱ イオンモール高知	2000年 12月	6,182	(36.3%)	8,130	(102.1%)	2007年 3月 撤去			57,635	(105.2%)	1,880,067	62.9%	●	●	23,896
九州営業部															
㊲ イオンモール福岡ルクル	2004年 6月	10,069	(132.8%)	13,944	(102.3%)		●		106,792	(105.6%)	1,193,857	99.7%			30,000
㊳ イオンモール直方	2005年 4月	7,158	(98.5%)	10,702	(97.0%)				71,160	(112.3%)	1,029,439	100.0%		●	39,899
㊴ イオンモール三光	1996年 12月	10,345	(105.6%)	3,691	(98.8%)	●			20,960	(103.1%)	795,068	84.5%	●	●	36,708
㊵ イオンモール宇城バリュー	1997年 11月	3,427	(103.0%)	6,143	(102.5%)			蓄熱	28,080	(124.4%)	362,743	47.9%			50,000
㊶ イオンモール熊本クレア	2005年 10月	6,522	(106.2%)	11,596	(105.5%)		●	太陽光発電	141,987	(105.2%)	1,000,429	68.1%			50,000
㊷ イオンモール宮崎	2005年 5月	6,774	(100.0%)	10,165	(97.4%)				72,508	(98.1%)	1,769,560	91.5%		●	56,432
PM営業部															
㊸ 京都ファミリー	1982年 11月	2,702	(105.9%)	3,979	(104.0%)				37,945	(38.3%)	1,143,764	100.0%			—
㊹ ならファミリー	1972年 3月	9,805	(103.3%)	10,690	(95.8%)				169,002	(57.8%)	2,790,040	46.2			300

★ モール共用・後方部分が対象 ※ システム搭載車両による計測

お客さまや社会との 環境コミュニケーションに力を入れています。

お客さまにも環境配慮を呼びかけ

省カーペットやタイル、ベンチなどにリサイクルの再生資材を使用していることで、CO₂の排出をできる限りニュートラルにしていこうと考えています。

館内には分別ごみ箱を配置。駐車場ではアイドリングストップを呼びかけています。また小中学校の総合学習なども積極的に受け入れ、ごみ保管庫などのバックヤードも含めて見学することで、エコモールに向けた取り組みを伝えています。2008年度は、エコバッグの利用なども呼びかけ、お客さまとともに省エネやリユース・リサイクルを進めていきたいと考えています。

自転車利用でCO₂削減

■イオンモール日の出 鈴木 順子さん

健康と温暖化防止のために自転車で来ました。みんなが集まるモールで、楽しみながら、エコに配慮できるような活動を紹介したら、影響力が大きいのでは？



館内での環境コミュニケーション

太陽光発電状況を表示

太陽光発電パネルを設置したモールでは、館内に現在の発電状況と、削減したCO₂量が一目でわかるボードを設置しています。



CoCo ni Eco

イオンモール羽生ではモールの環境保全の取り組みをパネルで紹介した「CoCo ni Eco」コーナーを設置しています。



エコベンチ

館内に、モールでの環境取り組みと、家庭でできる環境活動を立体模型で示した間伐材のエコベンチを配置しています。



エコバッグ展示

イオンモール羽生では、オープン時に、各専門店オスメのエコバッグを館内に展示し、エコバッグのご利用を呼びかけました。



バスの乗車人数調査

最寄り駅とモールとを結ぶバス路線の新設・増便なども進めています。2007年度は21カ所のモールで、年間のバスの乗車人数を調査し、利用実態を把握。今後は、公共交通機関の利用なども促す取り組みに力を入れていきます。



2007年度乗車人数一覧

(単位：人)

イオンモールつがる柏	53,918	イオンモール岡崎	400,251
イオンモール盛岡	89,869	イオンモール鈴鹿ベルシティ	231,948
イオンモール太田	209,419	イオンモール京都ハナ	16,8170
イオンモール高崎	147,049	イオンモールりんくう泉南	362,198
イオンモール水戸内原	22,511	イオンモール神戸北	425,141
イオンモール羽生	141,179	イオンモール倉敷	223,202
イオンモール日の出	47,259	イオンモール新居浜	21,498
イオンモール富津	29,320	イオンモール直方	121,256
イオンモール成田	735,109	イオンモール三光	72,575
イオンモール高岡	214,700	イオンモール宮崎	430,567
イオンモール浜松志都呂	164,739		

* イオンモール京都ハナ8月度～、イオンモール羽生11月度～、イオンモール日の出12月度～



「エコプロダクツ 2007」に出展

2007年12月13日～15日、イオンは環境への取り組みを紹介する国内最大規模の展示会「エコプロダクツ 2007」に、「進化するエコストア～くらしにエコがひろがる～」をテーマに出展しました。イオンモールのコーナーではエコベンチを設置し、子どもたちをはじめ、多くの来場者の関心を集めました。



「エコドライブ読本」を配布

モールで働く全従業員に、入店時の環境教育を実施しています。2005年度からはエコドライブの効果をわかりやすくまとめた「エコドライブ読本」を配布しています。2008年度は、お客さまにもエコドライブを呼びかけていきます。



全国のモールでの環境コミュニケーション

5つのECOチャレンジ宣言！

■ イオンモール伊丹テラス

2007年10月の5周年にあたって、お客さまとともにCO₂削減を進めようと「ECOの森～5つのECOチャレンジ宣言！」の環境イベントを実施しました。お客さまの環境宣言が記された葉が繁ったECOの樹を製作したほか、ECO紙芝居の実演、高さ3m、幅3.5mの巨大エコバッグに、子どもたちが鳥やトンボを描いた「エコバッグアート」、オリジナルエコバッグづくりなどに取り組んでもらい、親子で環境を考える機会となりました。



1,016名の社会科見学を受け入れ

■ イオンモール鈴鹿ベルシティ

市内小学校をはじめ、県内養護学校の子どもたちの社会見学や商業体験を受け入れています。小学生を対象にした、ごみ処理やエコ活動、防犯、警備対策などを中心とした社会科見学会は、ショッピングモールでのさまざまな仕組みに直接触れられる機会として年々参加者が増え、2007年度は、22回・合計1,016名が来館しました。



森を育てる自動販売機設置と「ソレイユ秋祭り」

■ イオンモール広島府中ソレイユ

2007年8月に、敷地内に、売上の一部を(社)広島県みどり推進機構の育樹基金に寄付する「森を育てる自動販売機」を設置しました。木をかたどった特徴的なデザインで、2008年5月現在14万5,809円を寄付しました。

9月29日～30日に実施した「ソレイユ秋祭り」では、県の漁協・農協の「地産地消とれたて朝市」を中心に、さまざまなイベントを実施。期間中はバイオディーゼル燃料のバスが、駅とモールを結びました。

